

備前焼ミュージアム新築等整備基本構想

令和4年10月 備前市

第1章 市内文化施設の現状と課題

1-1 市内文化施設の現状

(1) 備前焼ミュージアム

備前焼ミュージアムは、昭和52年3月に「岡山県備前陶芸美術館」として(協)岡山県備前焼陶友会が竣工(築44年)、平成27年10月に備前市へ移管し、市民の備前焼その他芸術文化に関する知識と教養の向上、並びに芸術文化の創造と発信に努めている。

1階、2階は企画展フロア、3階、4階は人間国宝や岡山県重要無形文化財の認定を受けた作家の作品の常設展示フロアとしている。

○所在地：備前市伊部

建築年月日：昭和52年3月(経過年数45年)

施設総面積：1477.75 m²

構造：鉄筋コンクリート造5階建(1477.75 m²)

○開館時間

午前9時30分～午後5時(入館は午後16時30分まで)

定休日は月曜日(祝日の場合は翌日)12月29日～1月3日

企画展等の展示替え時期が臨時休館。

(2) 備前市歴史民俗資料館

備前市歴史民俗資料館は、昭和26年12月に竣工(築70年)された旧簡易裁判所を増改築し、平成3年にオープンする。郷土の歴史並びに衣食住、生業、信仰、年中行事等に関する風俗慣習及びこれらに用いられる衣服、器具等その他の物件で地域住民生活の推移の理解のため欠くことができない資料を収集し、保存展示して一般の利用に供し、もって、市民の文化的向上、調査研究に役立てている。

民俗・文芸・セラミックス・企画の4つのテーマからなります。民俗室は、昔の人が生活に使っていた道具(行灯やランプ、石臼など)を展示して、人々がどのような暮らしをしていたかを紹介している。文芸室は、備前市出身の作家正宗白鳥(文化勲章を受章)や白鳥の弟で国文学者の正宗敦夫、直木賞作家の柴田錬三郎など、備前市にゆかりのある人物を紹介している。セラミックス室には、備前焼を焼く登窯の断面模型や備前市内から出土した遺物や備前焼、備前市の産業を支えた耐火レンガなどを展示している。企画展示室では年に数回、人物や備前の歴史などいろいろな角度から展示を行っている。

○所在地：備前市東片上

建築年月日：昭和26年12月(経過年数70年)

施設総面積：433.62 m²

構造：木造2階建(376.60 m²)、鉄骨造(66.02 m²)

○開館時間

午前9時00分～午後16時30分

定休日は月曜日（祝日の場合は翌日）12月29日～1月3日

（3）備前市加子浦歴史文化館

備前市加子浦歴史文化館は、平成9年10月に竣工（築24年）、郷土に関する歴史、民俗、文芸等の資料を収集、保存及び展示して広く一般に供し、もって市民の文化的向上及び調査研究に資することを目的としている。

「加子浦」は公用船や海路を行く参勤交代の諸大名の通船へ、水や薪を供給したり、加子役（船をこぐ者）を勤める、労役を課された浦のことです。館の名は江戸時代に加子浦に指定された日生の歴史に由来しています。

資料館は兵庫県の港町室津で本陣職を務めていた筑前屋の分派が日生の地に移り建築した江戸時代末期の民家を移築したもの。文芸館は日生町出身の小説家里村欣三、児童文学者の牧野大誓、南画家の久保田耕民らに加え、日生町を訪れた与謝野鉄幹・晶子夫妻、土屋文明、正宗白鳥、井伏鱒二、藤原審爾、池田満寿夫らの色紙や作品を展示している。

○所在地：備前市日生町日生

建築年月日：平成9年10月（経過年数24年）

施設総面積：571.13㎡

構造：鉄筋コンクリート造2階建（301.00㎡）、
木造2階建（240.00㎡）、木造1階建（28.00㎡）

○開館時間

午前9時00分～午後16時30分

定休日は火曜日（祝日の場合は翌日）12月29日～1月3日

（4）備前市埋蔵文化財管理センター

備前市埋蔵文化財管理センターは、昭和46年8月に竣工（築51年）された岡山陶芸センターの一部を譲り受け、平成23年に開館。備前焼をはじめとする郷土の歴史的遺産を保護し、かつ、その活用を図り、市民の文化的向上及び調査研究に資することを目的とする。

備前焼古窯など歴史や文化を語る貴重な埋蔵文化財の保護・保存を図り、その一部を常設展示しています。

○所在地：備前市伊部

建築年月日：昭和46年8月（経過年数51年）

施設総面積：670.13㎡

構造：鉄骨造2階建（670.13㎡）

○開館時間

午前9時30分～午後16時30分

定休日は火曜日（祝日の場合は翌日）12月29日～1月3日

(5) 備前市吉永美術館

備前市吉永美術館は、平成2年2月に竣工（築32年）、美術に関する市民の知識及び教養の向上を図り、市民文化の発展に努めている。

武元登々庵（たけもと とうとうあん）の作品を主として所蔵する、全国でも珍しい書道中心の美術館です。奥深い書道の世界を楽しんでいただけます。また、絵画・工芸・陶芸・その他美術品も所蔵しています。

○所在地：備前市吉永町吉永中

建築年月日：平成2年2月（経過年数32年）

施設総面積：206.75 m²

構造：鉄骨鉄筋コンクリート造2階建（206.75 m²）

○開館時間

午前9時00分～午後16時30分

定休日は月曜日（祝日の場合は翌日）12月29日～1月3日

○入館状況

市内の文化・博物館施設（過去10カ年）の入館状況です。令和元年度末から令和3年度にかけて、新型コロナウイルス感染症の影響により各施設で入館者数が減少していますが、コロナ禍前の入館者数は、各施設共に平均的な入場者数で推移しています。

（単位：人）

年度	備前焼ミュージアム	備前市歴史民俗資料館	備前市加子浦歴史文化館	備前市埋蔵文化財管理センター	備前市吉永美術館
平成24年度	—	2,765	2,749	895	707
平成25年度	—	2,565	2,148	1,312	667
平成26年度	—	2,427	2,406	1,204	771
平成27年度 (開館日数)	4,428 (149)	2,631 (293)	2,271 (301)	1,143 (299)	717 (166)
平成28年度 (開館日数)	9,276 (297)	1,976 (292)	1,692 (299)	1,200 (293)	445 (156)
平成29年度 (開館日数)	11,060 (300)	1,517 (293)	3,545 (297)	1,505 (297)	594 (188)
平成30年度 (開館日数)	8,892 (281)	1,544 (290)	3,844 (295)	1,018 (295)	397 (153)
令和元年度 (開館日数)	10,075 (277)	1,543 (279)	3,221 (293)	1,181 (279)	424 (154)
令和2年度 (開館日数)	4,161 (240)	1,715 (241)	2,939 (248)	707 (245)	45 (107)
令和3年度 (開館日数)	4,845 (225)	1,226 (231)	2,745 (229)	566 (236)	129 (90)

※（ ）内の数字は開館日数

○県内文化・博物館等施設の入館状況

〈参考資料〉「観光客・その流れと傾向」資料抜粋（岡山県産業労働部観光課発行）

岡山県産業労働部観光課が取りまとめる「観光客・その流れと傾向」の資料から文化・博物館等施設を抜粋し、各施設の入館者数となります。

（単位：人）

		令和2年	令和元年	平成30年	平成29年	平成28年
岡山市	岡山県立美術館	63,196	156,004	87,134	106,604	113,920
	県立博物館	18,730	51,778	46,946	55,087	46,773
	オリエント美術館	7,215	46,526	20,868	22,376	33,977
	林原美術館	8,467	22,639	18,972	20,662	14,163
	夢二郷土美術館・本館	7,901	21,465	20,614	21,470	28,109
	吉備路文学館	2,226	5,660	3,645	3,576	4,413
	岡山シティミュージアム	60,267	171,134	105,243	112,717	157,931
	招き猫美術館	11,914	15,892	11,915	13,197	16,574
倉敷市	大原美術館	89,714	317,544	273,417	302,313	337,853
	倉敷市立美術館	42,957	80,695	74,017	87,064	82,084
	倉敷市立自然史博物館	23,334	47,194	45,784	55,357	60,650
	倉敷民藝館	4,670	13,258	13,802	16,044	26,220
	倉紡記念館	20,069	34,931	35,260	23,975	17,539
	日本郷土玩具館	1,063	4,035	4,692	6,554	8,410
笠岡市	竹喬美術館	12,413	17,827	14,408	11,175	13,346
井原市	田中美術館	7,596	13,572	13,237	12,261	16,037
	華鷄美術館	4,954	6,335	5,552	8,284	7,052
高梁市	成羽美術館	11,531	19,468	24,191	45,423	29,735
新見市	新見美術館	16,177	24,014	18,727	17,216	25,662
瀬戸内市	牛窓海遊文化館	1,734	3,793	3,915	4,346	4,400
	備前おさふね刀剣の里	22,393	44,402	36,188	36,654	51,453
美作市	武蔵資料館	2,455	5,143	4,982	5,645	6,422
	現代玩具博物館	13,737	29,085	31,806	30,049	30,397
浅口市	岡山天文博物館	9,833	21,181	20,756	9,852	11,975
矢掛町	やかげ郷土美術館	14,663	24,450	23,414	17,060	22,892
奈義町	奈義町現代美術館	18,624	22,982	20,765	22,072	20,823
	なぎビカリアミュージアム	9,496	12,546	10,807	10,283	9,597

1-2 備前焼ミュージアムの課題

備前焼ミュージアムは昭和 52 年 3 月に竣工、1981 年に改正された建築基準法の旧耐震基準に該当する建築物であった。当時は最新の設計された展示室も、今では美術館としての要件を満たしておらず、差し込む自然光に個性の強い建材、作品の展示には不向きとされる要素が揃っている。さらに、今の耐震基準も満たせず、老朽化も進んでおり、平成 29 年度に耐震診断調査を実施、「地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性がある。」と診断の結果を受け、平成 30 年度に岡山県へ耐震診断結果を報告する。

隣接の国道 2 号線は、平成 29 年 7 月、災害時に緊急車両等の通行を確保すべき路線とした緊急輸送道路に指定されたため、建築物の耐震改修の促進に関する法律（平成 7 年法律第 123 号）の規定に基づき、現備前焼ミュージアムは「要安全確認計画記載建築物（緊急輸送道路沿道建築物）」に該当し、岡山県から公表されることとなった。

建築物の耐震改修の促進に関する法律においては、「要安全確認計画記載建築物の所有者は、耐震診断の結果、地震に対する安全性の向上を図る必要があると認めるときは、当該要安全確認計画記載建築物について耐震改修を行うよう努めなければならない。」とされている。

また、ソフト面としての課題は、備前焼ミュージアムは、備前市を代表する備前焼作品を多数保管し、その伝統と歴史文化を伝える世界にも誇れる施設であるにもかかわらず、発信力が弱く、十分活用されているとは言えず、来館者数も低迷している。主な要因としては、幅広い人々の集客や地域との連携が図れていない環境や利用者ニーズや時代の動向に十分対応ができていないことが考えられる。

■その他、館内施設整備等に係る課題について

- ①施設玄関の扉は大きく重厚で、西向きに面した扉は夏場に熱くなる。子供・高齢者・障がい者も利用しやすい扉（自動扉等）への改修を検討するとともに、施設内の温湿度管理・害虫対策のため、風除室の確保が必要である。
- ②備前焼以外の展示物は変色する恐れがあるため、基本的に博物館等では紫外線をカットする蛍光灯を使用している。現在の構造は、入口から展示室まで直線的で直射日光が入り、ケースの変色・展示物の劣化の恐れがあり、来館者が展示を見る妨げになっている。直射日光が展示物にあたると熱くなったりして破損につながることもあるため、改修が必要である。
- ③雨天等の天候に左右されず、大型トラック等で安全に資材の搬入出が可能な、屋根付きの搬入口の確保が必要である。
- ④収蔵庫は温湿度変化が特に緩やかであることが望まれ、通常、収蔵庫から資料を搬入出する際に外気に慣らすための前室の確保が必要とされている。収蔵庫への害虫対策並びに、汚れを持ち込まないために前室から履物を替えるなど対処も必要である。また、現在の収蔵庫も手狭となっており、今後、資料の把握・保存状態等の管理を継続す

るため、収蔵庫の拡張または新たな収蔵庫の確保は必要である。

- ⑤展示ケース内の展示スペースに対してケースの出入口が小さい、展示が可能な資料が制限され、主催者の希望に沿った展示が実施できない状況にある。また、展示ケースの腰が高く、子供や車いすなど来館者が見やすい展示ケースへの改修を検討すべきである。
- ⑥現状の施設は、温湿度管理、害虫対策が十分にできる状態ではない。温湿度管理・害虫対策は博物館の危機管理の一つとされている。資料は温湿度変化によって劣化が進みやすくなる。陶磁器系は温湿度変化に強いほうではあるが、劣化がないわけではなく、湿気・結露などを招くとカビの原因にもなる。特に竹製品・木製品・紙製品などを好む虫の被害は気づかないうちに大きな破損となりえる。陶磁器なども中に虫が入り込んで糞を残したり、卵を産んだりすることで、新たな害虫・ネズミ等の害獣を招く恐れがある。

第2章 基本的な考え方

2-1 新たな備前焼ミュージアム整備の必要性と役割

2017（平成29）年に公布・施行された「改正文化芸術基本法」では、新たな時代の理念として、文化芸術の振興にとどまらず、地域社会における学校やコミュニティ活動との連携や、観光・まちづくり・国際交流・福祉・教育・産業等の関連分野との有機的な連携を、ミュージアム（美術館・博物館・資料館）に求めています。

また、文化芸術によって産み出されるさまざまな価値を、継承・発展・創造に活用することの重要性を強調しています。

新たな備前焼ミュージアム（以下「新備前焼ミュージアム」という。）は、備前焼文化を世界に発信する一丁目一番地として、基本法の理念を体現する場であるとともに、文化芸術の多様な価値を創出し、地域の未来を切り拓く役割を担う備前のランドマークとして、再生を目指します。

2-2 新備前焼ミュージアムの理念

新備前焼ミュージアムは、作品を作る人（芸術家）、見せる人（ミュージアム職員）、観る人（来館者）の三者の協働によって初めて成り立つ場所であります。

新備前焼ミュージアムは、美術作品を収集・展示するだけの場所ではなく、備前焼の誕生と歴史、その魅力を作り出す作家たちの創造と想い、受け継がれる文化に育つ地域を表現する場であり、かつ、市民をはじめ全国・世界からの来館者が、備前焼をはじめその他の芸術文化に関する知識と教養を向上させる場とし、作品を作り出す芸術家、それを観せる職員の芸術文化の創造と発信を支え続ける拠点とする。

また、本市の特性を踏まえ、市民の誰もが新備前焼ミュージアムを身近に感じることができるよう、地域へのアウトリーチ活動にも力を入れるとともに、開かれたミュージアムとして運営します。

2-3 新備前焼ミュージアムの基本的なコンセプト

新備前焼ミュージアムは、「多様なニーズに対応した美術館・博物館のマネジメント改革のためのガイドライン（平成30年7月 文化庁）」に基づき、次の5つのコンセプトによって、美術館が果たすべき役割・機能を備え、備前市が誇る地域文化・芸術、伝統や歴史、恵まれた自然環境を国内外に発信することにより、文化・観光の交流拠点を目指す。

(1) まちに開かれた公園のようなミュージアム

岡山県東南端の兵庫県との県境にある備前市の中心部を東西に結ぶ国道2号線沿線と、JR赤穂線沿線の伊部駅前にある好立地の条件を活かし、備前焼の伝統と発展がいきづく街並みと一体化した文化的な空間・美しい景観を創造するミュージアムとする。

また、誰もがいつでも立ち寄ることができ、様々な出会いや体験が可能となる公園のようなミュージアムを目指します。

(2) 市民とつくる参画交流型のミュージアム

文化・芸術による学びの場や研究・交流の場を提供し、市民が文化・芸術に親しみ、楽しみながら感性を磨き、豊かな心を育むとともに、自らの隠れた才能を発見・開発する機会を提供するミュージアムとする。

また、岡山県内及び近隣地域の美術館等と連携し、共同プログラムの開発やアウトリーチ活動など幅広い協働や支援を行う。

(3) 子どもたちとともに、成長するミュージアム

未来の文化を創り出す子どもたちに開かれた教室として、見て、触れて、体験できる最適の環境を提供し、子どもの成長とともに美術館も進化し、時代を超えて成長します。

(4) 地域文化の多様性を活かし、世界に開くミュージアム

備前市各地域の文化の多様性を活かすため、巡回展等の連携・協働の取組、人材育成、情報発信、調査・研究等を支援するミュージアムとする。

(5) 世界の今とともに生きるミュージアム

新備前焼ミュージアムは、備前市が誇る伝統工芸「備前焼」をはじめとする日本遺産「日本六古窯」、世界に生まれた美術作品に市民とともに出会う美術館とする。多種多様な美術作品とともに、その芸術活動にじかに触れ、体感することで、地域から、未来の創造への橋渡しをします。

第3章 施設整備

3-1 施設整備方針

(1) 施設の配置及び既存施設との関係

- ①新備前焼ミュージアム施設の配置エリアは、現在の備前焼ミュージアム敷地内とする。
- ②既存施設は全面解体し、同敷地内に新施設を建築する。
- ③来館者の利便性維持・向上に配慮し、周辺道路からの進入、駐車場の整備、また将来的に伊部駅並びに備前焼伝統産業会館との接続を考慮した施設の配置とする。設計時に備前市と協議の上、調整する。
- ④新備前焼ミュージアムは、基本的なコンセプトに沿って、市内文化施設の機能との統合を図る。機能の統合は、設計時に備前市と協議の上、調整する。

(2) 立地条件を活かした整備

- ①周辺の街並みや自然美と調和するランドスケープに配慮した施設とする。

(3) 市民に親しまれ永く利用されることに配慮した整備

- ① 幼児、高齢者や障がいのある方、外国人観光客など誰もが利用しやすいユニバーサルデザインに配慮（エレベーター・スロープ・多目的トイレ等の設置、誰にでも分かりやすい案内表示 等）
- ② 車いす使用者及び歩行困難な方のための駐車区間を設置
- ③ 維持管理費を節減できるよう、省エネルギーやライフサイクルコストに配慮
- ④ 県産材など材料や調度品の活用に配慮し、魅力を発信
- ⑤ 人命の安全確保はもとより、作品に被害が及ばないように、地震や水害への対策とともに防災面の機能にも配慮

3-2 施設の概要

(1) 施設の規模及び機能等

- ① 新備前焼ミュージアムのコンセプトを実現できる施設として、延床面積は 2,000 m² ~ 2,500 m² 程度を基本に、部門ごとの面積を含め基本設計を経て確定する。
- ② 展示部門及び収蔵部門は、国宝や重要文化財の展示・保管や美術品政府補償制度の適用に支障のない、国際基準に準拠した建物性能を確保する。
- ③ 教育部門として、市民が美術に親しみ、楽しむ機会を得られるように、市民ギャラリー（貸スペース）、ワークショップ室・アトリエを設ける。
- ④ 調査研究部門として、備前の地域文化の多様性を活かして、文化芸術に関する情報の収集・発信と調査・研究の拠点となるアート・ライブラリーを設ける。
- ⑤ サービス部門として、カフェ・ショップ等の設置が可能なスペースを確保し、文化芸術や観光情報の収集や誰もが気軽に集い、憩えるパブリックスペースを設ける。
- ⑥ 各部門・諸室の関連を重視し、利用者に分かりやすく、管理上も効率的な配置とする。
- ⑦ 利用者にかかれた部分と美術作品を守る部分を確実に両立できるように利用者の動線と美術作品の動線が交差しないように配慮する。

(2) 基本的な機能構成

[展示部門（展示公開機能）]

常設コレクション展示室・企画展示室・市民ギャラリー・控室等

[収蔵部門（収集保存機能）]

収蔵庫・前室・資材室・一時保管庫・トラックヤード・荷解室・
生物対策室・作品用エレベーター・保存修復室・倉庫等

[教育部門（教育連携交流施設）]

多目的研修室・ワークショップスタジオ・ボランティア室・キッズルーム等

[調査研究部門（調査研究機能）]

調査研究室・資料室・作業室等

[サービス部門（共用機能）]

ミュージアムショップ・カフェ・休憩コーナー・南大窯展望デッキ等

[情報発信部門]

美術資料閲覧室・事務室・メディアスペース等
〔管理部門（管理運営機能）〕

館長室・学芸員室・事務室・応接室・防災管理室・バックヤード・駐車場等

（3）整備手法

新備前焼ミュージアムのコンセプトを実現できる施設として、設計段階で発注者の細かな意見や要望を反映できるプロポーザル方式により設計者を選定する。

(4) スケジュール (案)

	令和4年度				令和5年度				令和6年度			
	4～ 6	7～ 9	10 ～ 12	1～ 3	4～ 6	7～ 9	10 ～ 12	1～ 3	4～ 6	7～ 9	10 ～ 12	1～ 3
業者選定			→									
設計業務委託				→								
工事入札						→						
建築工事						→						

第4章 運営

4-1 運営体制

コンセプトの実現に向けて、展示・収蔵を担当する学芸員の充実を図るとともに、新備前焼ミュージアムにおける活動の重点である美術館教育や調査・研究を担う専門性の高いスタッフを配置する。

効率的・効果的な管理運営及び計画的な展覧会準備など長期的な展望に立った責任ある運営を行う。

第5章 目指す姿に向けて今後取り組む課題

5-1 集客戦略

より多くの方にミュージアムに訪れていただくために、集客につながる取組に力を入れる。

- ①市内文化施設の整理・集約化の検討を行い、機能統合と連携による活用を図ります。
- ②バスや鉄道などの公共交通を利用したミュージアムへのアクセスを検討する。
- ③ミュージアムまでのアクセルルートにおける案内表示の改善に取り組む。
- ④SNS 等で若年層にも地域の文化財や芸術文化に触れ、親しんでもらえるような情報発信を行い、興味関心を向上させます。
- ⑤ミュージアムを観光振興施策の取り組みの一部として、旅行会社等とタイアップした観光商品の造成に推進する。